

3643 地球のかおり 「エメラルドグリーン」 (産経新聞) : 状況

エメラルドグリーン。緑中碧。緑の中の碧。

宇宙から見ると、地球は青かったという。カナダ、ロッキーでの出会い。

地球の色は、実に多彩。造形も実に多種多様。これが何とも面白い。

興味が尽きない対象である。

地球4周、しかも、辺境や地の果てをひとり旅した実感である。自然は大芸術家。

世界の素敵な美術館での芸術鑑賞より、大自然の出会いは、もっと面白い。

大自然の驚異と神秘。人間様が芸術の材料にしているのは、大自然であり、地球であり宇宙。

大昔、ロッキー山脈は、海の底だったとある。マンツルの移動や火山活動。

100年前は氷河期。幾多の風雪に耐えて生き延びてきた自然の動植物。

悠久の時の流れと氷河の活動、また、未来は姿を変えるだろう。

少し心配なのは、人為的な人間の行動。賢くあってほしい。

眼前の光景や色彩は、一側面にすぎない。

光で見え方が、刻々と変化する。刻々、人間の尺度もある。

人間の知らない事がいっぱい。

地中には、いろいろな鉱物。おそらく、眼前の光景もそうしたもの。一期一会。

湖水に小さなカヌーが見える。私自身も体験してきた。実に爽快だった。

ただ、作品の中にあるよう2、水位が下がり、岸辺の地肌が見えている。

水面からの視界は雄大だが、作品には面白くない。

まっすぐに伸びる針葉樹。小道具も、役者も、華もある。いつもの好奇心。

山の上から見ると、どのように見えるだろう。的は、エメラルドグリーンの湖水。

想像の段階である。山に登れるだろうか。この発想が、即実践になる。

その場に行けない時もある。到達しても、実現できないことも多い。

思い通りにならないことが多い。それでも行くか否か。

そのプロセスが楽しい。心の余裕がある時は、そのようにとれる。

心の有り様が決めるように思える。

道を探すことにした。幸い、小さな道筋がついている。

トレッキングコースかもしれない。獣道けものみちのようには見えなかった。

湖水から見上げているので、概要は想像できる。

スイートスポットに立ちたい一心だった。どのように見えるか、好奇心。

そして、行動開始。

なかなかベストポジションが見つからない。あきらめかけていた。

反対側への道も見つからない。思いとは、不十分だったが、木々の切れ目が見つかった。

足元は、断崖絶壁。

景色だけでは面白くない。動と静、動きあるものはないか。

同じような冒険者はある。この作品になった豆粒ほどの存在。

いささか、欲が出てきた。もっと、素敵なポイントはないか。歩を進めた。

少し進むと、小さな道が、二つに分かれていた。

靴で踏みしめたような跡ではない。草が立っている。

ふと何気なく、薄汚れた、小さな横文字の立て札に目が行った。

6人以上で行動する事。熊が出没。

今までの思いが吹っ飛んでしまった。かなり、山の中にいる。熊は天敵。

何しろ単身。引き返したのは言うまでもない。

ただ、日中である。気を配りながら、戻って行った。

その後、再挑戦をと思い資料と情報を入手。

宿のご主人に尋ねると、今の時期は比較的安全だが、保証はできない。

マナーの悪い人間が増えている。熊も、里近くまで出没。

不用意なマナー違反。確かにゴミが落ちている。人の視線関係なく、心したいもの。

やっとの事で、人のいるところに戻った。そんな経緯のあるワンシーン。

目にも、心にも、やさしい、エメラルドグリーン。